

## 明治中期の歯科診療録について

杉本茂春\*

明治17年から19年に至る2年間、現在の大阪府羽曳野市古市町に歯科医院を開設していた塩野織部の診療録について述べた。

同家は古市の菅田八幡の禰宜を勤めた家で、享保の頃から木床義歯を作り、口中療治を行なつたようである。明治になつて口中療治入歯営業鑑札をうけた。(山田抄)

## 羽間浄心信士の木床義歯

筒井正弘\*\*

この下顎木床義歯が発見された昭和28年8月7日、現場の大阪市大淀区楽勝寺墓地に行つて調査した所見を報告した。

柳生宗冬没より3年早く延宝元年に60才で没している。この義歯は精巧で下顎骨によく適合し、実際咀嚼に用いられたとみる。木床義歯の製作技術は関西が早かつたのではないか。(山田抄)

浄心の下顎骨と、それに装着された木床義歯は、後裔の大阪市福島区海老江の羽間平三郎氏が出席展示された。

参照 (日本歯科医師会 歯科医学会雑誌5巻, 昭和29年)

## 異形式抜歯鉗子の歯学史的観察

杉本茂春\*

中野操博士から古い抜歯鉗子1丁をいただいた。これは大阪近郊の旧家に蔵された歯科用古器具のうちのもので、類似の鉗子5コのうちの1個である。

この異形式抜歯鉗子が過去に、抜歯鉗子として使用されたか、血痕検出検査を大阪大学に依頼したところ、手術の経験をもつ器械であることがわかつた。また同大工学部の金属的検索の結果は、製鋼法は近代的のものでなく、木炭還元と思われる。硫黄、燐などの不純物は少な

いが、酸化物が多いこと、こうした製鉄法は明治末から大正年代には行なわなかつた。よつて金属学的には明治時代に、わが国の鍛冶によつて古式製鉄法で作られた国産品に間違いのないとのことである。

上顎および下顎の小臼歯、前歯の抜去に便な形態で、角度からは下顎用鉗子に近い。支把柄の端はへら状で舌圧子に応用できる。

## 榎本積一から堀内徹氏

## 宛の手紙について

今田見信\*\*\*

大正5年3月から大正8年3月に至る27通の手紙の内容を紹介、手紙を展示解説した。榎本積一は、つぎに掲げる手紙にも残されているように病床の身となり静養をつくしたが、遂に大正9年11月28日中野別邸で永眠した。演者は歯科団体の功労第1人者として榎本の効績を高く買っている。(「展示史料」参照)

(展示史料) 榎本積一から堀内徹氏宛の手紙

(1) 大正5年3月23日(堀内賢兄・永田学兄あて)

拝啓 時下不順の候、如何御起居被成候哉、昨春以来改正案提出運動の為寸暇無之執筆不致候に付日頃御無沙汰に打過申候

啓て、改正案通過に就ては熱誠の御応援の段奉感謝候各方面より非常なる尽力を仰ぎ候へ共、案の内容は諸君の満足すべきもの出来不申、汗背の至りに御座候

先般も申上候通、医師団の猛烈なる反対有之候為、存外費用相嵩み、借入金なし跡始末相付けつゝ有之次第に付、貴会に於ても何卒御寄附金御尽力相願度奉懇望候

東京市に於ては、前回金600円寄附可致役員会に於て決議仕候、来29日総会に於て尚決議致候事に相成候

来月10日午後1時、愛国生命保険会社か又は私立衛生会に於て報告会を兼ね臨時総会開催致候事に決定仕候、8日は学会、9日は同窓会、10日は本会と申順序に御座候。10日の夜は紅葉館に於て、歯科独立10年記念祝賀会開催致度計画仕候間、貴兄並に永田君共、是非御上京御出席相願度、予め御願申上候

医師団は、中央衛生会を動かし、骨抜に致す計画にて、普通新聞を応用候、其代種々の手段相講じ居候

昨日、小生内務省へ出頭致、歯科医師の希望懇談仕置

\* SUGIMOTO SHIGEHARU 大阪府歯科医師会副会長

\*\* TSUTSUI MASAHIRO 大阪歯科大学教授

\*\*\* IMADA KENSHIN 歯学史集談会幹事

候。法律は是非10日以前に発表し、議君へ御土産に致度夫々運動致候 先は右御願旁々如斯候

(2) 大正5年4月15日

肅啓 去10日、紅葉館に於て歯科独立年記念祝賀会開催に際し、早速御鄭重なる御祝電を賜はり難有奉感謝候。

以御蔭、一段の光彩を呈し候

先は乍延引御礼申述度如此候

草々敬具

(3) 大正5年8月10日

拝啓 時下愈々御清健奉賀候

過日は御来訪被下難有奉感謝候。尚翌日も御在駕被下候事と、御待申上候処、御疲労の為御来光無之、尚御話申上度存候処残懷に存候

御賢息業卒り、御健全なる御帰朝にて、御家庭も幾分寂寞を破り繁々敷相成候事と奉賀候。小生当夏は貴地へても罷越、探勝致度考候処、次々と来患差置難きもの有之、未だに何処へも出駈候機会も無之候。午前中衣川の弁慶を学び、午後は静臥、夜分は早寝と申如く、毎日繰返繰返仕居候。

御来駕の節御依頼御座候感謝状は、役員と相談の上、別封の如く訂正候間、是にて御承引被成下度候

内務省令に就ては、文部省(大学教授会)にて大なる反対有之、帝大卒業者に認め呉候様との義突発致し候

尚貴兄御来訪被下候兩3日後、専ら對抗運動に着手し、両省に出頭陳情等種々手段相講し申置候へ共、内務省中央衛生会決議案通にしては両省の協議纏り兼候

多分、1年なる期限を附する事は実行出来難きやに觀察相致候

本年の暑気は酷烈と申方には無之候へ共、何分当地は雨量多く、毎日降雨を見ざる事無之有様にて、蒸暑く閉口致候。先は感謝状送附通知を兼ね如斯御座候

貴見に従ひ、取纏め御郵送仕候間、宜敷御配付願上候

拝具

御賢息へ宜敷御鶴声願上候

(4) 大正5年10月初3日

拝啓 時下愈々御清適奉賀候。陳は貴兄には今般歯科試験委員御就任に相成御苦勞様に奉存候。御迷惑の義と存候へ共、拝彰に存候。何分御尽力願上候

小生にも、先月交渉有之、一度は健康其任に堪へすとて御断申上候処、試験主事態々来訪せられ、懇々就任へ勧告を受け、且兼て小生より提出致置候試験法改良四ヶ条も、全部無覚束も大部分採用致候事に尽瘁可致との御申出も有之、此上就任固持致候も如何と存、就任致す事

に相成申候

小生の改良意見は、全国試験を統一する事が主にて

1. 学説試験問題を東京地方同一になし、受験者総体に対し、難易軽重の区別を除去する事

1. 東京関西二ヶ処の実地試験を1ヶ処に取纏め、是又統一を計る事。受験者不便の為に、東京関西2ヶ処に置く必要ある時は、東京と同一資格の試験委員に依りて、試験する事

従来は、普通医士側の委員のみにて実地試験を行ひたる事さへあり、弊害渺からず

1. 実地試験方法を改むる事

従来の実地試験は、口答試験の感有之、歯科実地は真の実地的に非らされは不可の理由を挙げ、渺なくとも2、3時間此方面に時間を要し、治術的技工的のものを製作するか、又は操作をさしむる事

1. 学説試験採点後、委員一同会合して、成績に付討議案排し、社会の需用供用の度を計り、且問題の難易を研究する必要あり云々

大略右の如き条件に御座候、御同感に御座候はば、機会有之候節は賛成御主張相成度奉懇望候

貴兄御就任被下候は、小生の非常の喜び候次第、どうか東西相応して、年来吾人の主張幾分なりとも貫徹致候様御尽力相願度候

先は右申上度如斯御座候

不相変乱筆御推読願上候

(5) 大正5年10月21日

拝啓 時下愈々御健勝の段奉大賀候 本日は美事なる松茸沢山御恵贈被成下、御厚情難有奉鳴謝候 大好物故早速賞味可仕候

過日、御賢息御来訪被下候節、実地試験に就て愚見申述置候間、御聞取被下度願上候 当期の実地試験は、従来のまゝ施行相成候由過日丸山主事被申居候 此試験終了後貴地並に当地の試験委員全部を文部省に召集し、協議の上御決定に相成候御予定の様子也 貴地へは委員出張致候哉如何は、小生は聞知不致候 若し出張を命せらるゝとせば、石原氏には無之候や 小生等に御下命有之候節は、出張御断り御協議申上度存居候

先は右御礼を兼ね右

早々不一

(6) 大正5年12月5日

拝啓 時下愈々御清榮奉賀候 先般は久々にて得閑談、愉快無此上候

貴兄には22日より28日迄は精勤の由、万事御疲労の事と奉察入候 実地御経験の結果、種々改革案も御案出相

成候事と存奉候

先般御話申上候通、丸山主事に請求致置候島峰氏担任の实地試験に於ける設備に付、去1日特別委員会（在京者）開会仕候、島峰氏、相応の案件提出の事と存居候処、何等の原案も無之、治療部には千円余も無之候ては設備被成難ひ位の処にて、甚た失望致候

加之ならず、先般15日の委員会に於ける改良案の1日を終了し、3人宛にて1時半の实地試験が最も適切の改良なる事を反復せられ、石原氏は関西委員の協議の結果島峰氏の意見に賛同被成居候旨を、伝達せられ、一井氏も之に賛成相成り候。小生1人にて極力反対を唱ひたり

此問題は既に委員長出席の上にて、学説は全国同一による事、实地は2日に別け、治療と技工と分割して試験する事、生理解剖は専門家に依頼する事、採点の事の如き大方針は既に確定議に相成居候。特別委員の任務は、其決議せる細部殊に实地試験に於ける設備に関し、適當なるものを調査設備すべき役目にして、其以外の問題を彼是研究すべき権能なしとして、極力論争致候。3人と1人にて中々面倒に有之候

然し小生は、今更如斯説、復活するに於ては、断然処決の覚悟を以て、厭迄主張仕候。幸い丸山主事より大方針は既に決定致居候に付、設備の点に付協議ありたし、との話有之、一先論争は解決仕候。貴兄並に緒方氏も2日に亘り試験するは適當とは認め無之候哉、診断治療と混合して1日に片付く事の希望を石原氏に御提議と相成候哉、委曲承知仕度候。小生は緒方氏は兎も角貴兄に於て如斯御提議相成候事は万無之事は信し居候へ共、石原氏は文部省に於て、関西委員諸君は1時間半位にて診断治療部の委員と協議して、及落を決定する事は最も便宜たるを以て、如斯意志ある事を通達すべく委托を受けたりと被申居候

今回、实地試験改良に対し、当局に於て真に繰合出来候金は2,000円より無之候趣、然るに小生の提出せる案は治術技工のみにて1,500円に相成申候。島峰氏は之に對抗するの意志なりや如何は難計候へ共、兎も角同氏の担任方面の設備にも1,000円以上是非必要なりと主張せられ候

如何なる試験方法を行ひ如何なる器械が入用なりとの説明も記録もなく、単に1,000円以上なりと主張せられ居候。小生は治術部に10問題、技工部15問題、之に要する器械材料何個、何円と、詳細に記入し、予算を提出仕候。併し東西にて2,000円なれば、1ヶ所1,000円に過ぎず、夫れも診断治療部と治術技工部とに分つ時は、500円宛に相成申候。如斯少額にては到底希望の設備を完成する能はざる事に有之候。然れとも予算上如何とも出来

不得事なれば、此範圍に於て減削して予算の組替を請求相成候故、爾来小生は種々苦心取調居候。明夕一井氏は来車を乞ひ決定して、7日に文部省に提出可致考に御座候

7日の夕刻にても、丸山主事 阪、京兩地に出張せられ、試験場の都合並に貴兄等に御面会被成、設備案に関し御協議有之候事と存候

其際、貴兄より過般の決定事項たる实地試験を2日に分ちたるに向つて、何等意見を石原氏に提出不致候旨御話被下度候（必ず貴兄より石原氏に加斯御提議無之ものと小生は確信致居候。夫とも何かの御都合にて島峰説に御賛成の意を述へ置かれ候は、此限りに非ず）

御分袂の際、小生の案を貴兄には御送可致約束申上候処、其後何となく健康状態不宜、今日は今日とは遂延引仕居候段奉多謝候

今日に至りては、5~600円の処にては余り思切りたる案も出来難く候へ共、是は丸山氏携へられ貴兄案に御協議相成候事と存候に付、別段小生よりわざわざ申上不申候

試験場を京都にするか、大阪にするかに付、取調相成度が丸山主事出張の要目に御座候

石原氏は、大阪が患者を得るに便利なりとは今回の成績に於ても著しなりと、大阪を主張被致候。島峰小生案は、歯科部のある京都医専は器械監督に於ても、京都の方便ならん位の事を申候

併し兩人共未見の事故、余り強き主張も出来難く候。室の都合、瓦斯の取付、患者の都合、保管の具合等当局としては、夫等に付萬遺憾なき事情具備せざれば決定出来難き問題に可有之候。其通の取調が主なる御用向と被考候。御参考迄内通致候

先は右用迄

草々不一

御賢息へ宜敷願上候

石原氏へ意見申達御依頼云々の件は是非御通信待入候。向後御意見御申達の筋は、直接文部省へ以書面御申達相成候方可然存候。人頼は真意の届かざる疑有之候哉に被考候

（7）大正6年1月24日

拝啓 本年は寒氣誠に甚敷御座候処、如何御起居御伺申上候。貴地は近来なき降雪の由、当地は正月2日に少雪ありたるのみにて、大抵晴天氣相続申候。小生は寒氣の為か少数発病の度数増加致候、余り外出不致専ら養生仕居候。昨暮御大人より菰翁のいろは並に行書の御手本御惠贈に預り誠に難有、年来渴望仕居候もの手に入り、快感無此上、日々拝見樂居申候。全く貴兄の御厚情にして

此案を得る事と深く奉感謝候

貴地実地試験用の諸器械ことごとく購入済に相成候由、昨日文部省にて丸山主事より拝承仕候 当地の分は過日小生出頭カタログと引合せ、価格記入致提出仕置候 近日器械屋に競争入札に附する事と存候

当春期試験に幾分か理想に近き方法を実行し得られる事と楽居候

先は御近況伺旁、御礼を兼ね一筆如件 拝具  
御賢息へ宜敷御伝声願上候

(8) 大正6年4月28日

拝啓 愈々御清祥奉賀候

先般は、不相変欠礼奉多謝候 御上京の節、貴兄は文部省へ御出頭相成、局長に実地試験開始前に、一応委員を召集し、方針決定致度取計方法御依頼相成、局長承諾被成候趣拝承致、大に喜居候処、去19日突然東京の委員召集相成申候 文部省へ出頭致候点は多分貴兄等も御出頭相成事と存候処、在京委員のみに有之局長議長の座に着かれ、実地試験準備に付意見可申出被申渡候 45個の議題も有之候へ共、治術部に何人の委員を要するや、患者は何人にて宜敷候哉、技工部には何人、患者は幾何を要するや等にて、さしたる問題は無之候へ共、開会間先に、石原氏より治術部に充填の試験を致度候に付技工部は単に技工のみに止め置かれ度との注文有之、小生は甚だ意外に相感申候是には島峰、降幡両氏も極力賛成相成、殊に島峰氏数度其主張を繰返され申候 小生は是に向つて大反対を試み申候 元来治術部、技工部なる名称は、名実相添はさるものなるか故に、此際に於て名称変更の必要あり、従来治術部の名目を冠したるものは其实「診断治療」にして、単に技工部と称へたるものは治術技工の試験をなしつつあるにより、治術部を診断治療部に改め、技工部を治術技工部に改称するを最も至当と考ふるにより、如斯改名を主張致候 元来今回の改革の根元は治術技工方面の爲めに2日になしたるを以て、治術技工の実施は最も重きを置かさるべからず、従来技工部と唱へたる方面には、充填もさせ、矯正も、義歯もラバダムを装置さす如く、其方法たるや極めて不完全なりしも、治術技工両方面に向うて専ら実地試験をなしつつありしなり、此範圍に於て時間を延ばし、器械を具へ、十分の実地を試むべきが今回改革の主眼たり、従て此方面の器械を備付けたり只予算の関係上12人を1日になすに12人前の器械を備ふる能はさるが故に、治術方面の器械6人前、技工方面のもの6人前にて1時間か1科題毎に両者を交換し、実施するときは、差支なく、1日に2組即ち12人の実施をなす可く、万事此標準より割出し、計

画準備せるに、今日に至りて充填方面に手を触る可らずとの御説は甚だ解するに苦しむのみならず、到底委員として小生は其職責を全ふする者はさるに付、6人前の器械を以て12人を完全に試験し得る委員を御選定を仰くより外道無之、小生は断然御免を蒙むと、最後の断言迄なしたるにより、漸く充填を絶対にするなどは言はぬとの言を石原、島峰両氏より発言させる以て、充填の試験をもなして差支なしとの言明なれば、始めより断く爭議する必要なしとて、終に其事は相済申候勿論技工部担任側としては、一井氏欠席、河村、塚原両氏出席にて、河村氏小生に賛成の言を發したるも、塚原氏は一言も發せざりし、此際貴兄にても御出席あらばと大に残念に感したる次第に御座候

小生の改名説は、遂に採用されず、従来の如くに治術部技工部の名称を襲用する事に御座候 治術部には3人の患者を出し、委員2名にて12人の試験をなす事、石原、島峰氏の治術部の試験方法は、フロントームを6脚備へ、1時間乃至1時間半充填をなさしめ、一方受験者3人を入れ、3人の患者を診断なさしめ、追時診断治療を試験する事6人にて1時間半即1人15分時間にてなすとの事、小生此方法に就ては同意致兼候へ共、担当部門にも無之、余り自分の担任方面に劇烈の攻撃をなしたる故、面白き感も無之、無言に打過申候

只実際に於て如何にせらるゝや、小生は診断、治療に重きを置き充填の如きは余り重かさる方至当の事と考居候 技工部に患者を請求致候へ共、残酷の処置なりとて降幡氏の如きは極力反対せるを以て、終に是も採用せられず、フロントームに依りて試験する事に相成申候 来月4日より愈々実地試験施行する事に相成申候 初日は小生担当日に無之候へ共、小生計画致候方法故、当日の状況を視察し材品等の分配等に付ても夫々考究致度初日には兎も角視察旁々出頭可致考居候

治術部技工部の委員会少し懇談致兩者融和して事をなもときは円満に行く事を可得存候へ共其事なきは甚だ遺憾に存候 其内何とか意志の疎通を計り度考居候

治術部に於ては、石、島両者の意見一致せず、是か今回面倒を惹起したる大原因に御座候 其内情は御面会候節可申上候

先日来、右事情可申出存居候へ共、彼是急用に迫り居、遂に延引致候

東京の事情殊に前陳の事情御承知相成候事は、御参考に可相成考申上候

不相変乱筆御推読願上候

拝具

(9) 大正6年5月12日

拝啓 愈々御清祥奉賀候 日々大阪へ御出張試験御実行御疲労の段奉察入候

昨日は、美事なる花沢山成恵贈の段難有早速鉢植になし、自分は勿論来患にも見せ、衆人をして貴兄の恩恵に浴せしめ居候 珍奇なる美花として賞賛成呉、御かけ様にて小生の鼻高き事一寸計、歡小すみれも植付申候

車中長途の窮命に遭ひたる為か、2、3の花嫁疲労の体に見受候故、医師より手当相施したるも、全快致候哉如何心配致居候

試験場は、不相変隔日に出張仕居候 御承知の通、塚原氏病態の為、余り活動無之、全部1人にて負担致居候有様にて、小生最初計画致候通に参らす、出来得る丈、監督の入らざる科題相撰居候始末にて、御報告可致様のもの無之、残念に存居候

小生も余り健康者に無之、相手は尚一層不健康に有之候故、是非3人に増加被度致請求致候も、当分増員の様子も無之、試験方法に加減仕、此期丈を済すより外無之と存候 本日は天然歯歯冠切断し、歯根の開鑿をなし、合釘を調製根面板に鑢着せしめたり、約1時半、1は歯科器械材料4~5の技工方面の製作物を混じ、133点の名称用途の記入を為さしめたり、1時間半にて全部記入を為したる者1人も無之、漸く3分2~2.3に過ぎず候

不健康委員に於て、出来得る丈の科題案出するには、不尠頭を痛め居候 貴地の3委員は実に羨望に不堪候

本日は8回に相成候処、河村氏の方並に小生の方、何れも同一科題は提出致居らす候

貴地の状況御通知相願度候

成績は24人中3分の1乃至4分の1位の処に有之候

先は御礼旁々概況御通知申上候

拝具

石原氏始委員諸氏へ宜敷御伝言願上候

(10) 大正6年5月20日

拝啓 愈々御清健奉賀候 先般御話申上候、日本歯科沿革史資料調査委員長の富安君に御願申度種々懇請致候得共、同氏承引成呉不得止、小生引受候事に相成申候 病軀不堪其任存候へ共、他に適當の人も見当不申、小生は22年頃より研究会を組織し、多少其頃の事情をおぼろげながら承知致居候為、若い人より幾分探索の便可有之哉に考へ引受申候 併し此事業は、仲々困難の事は万々承知致居候も、貴兄等の御援助を得ば100分の1位の目的を達し得る可く存候間、是非御援助被成下度候 差当は過日候願申上候神戸に開業被成居候外国人の姓名、年令、生地、開業年限、日本人の弟子の履歴、其他御考

付の点、渡辺晋三氏は勿論、大阪の堀内清顯氏の履歴、其他西村輔三氏には、其師たるポプキン氏の生地、年令、開業地(横浜)の時期、其人の弟子の姓名に関し、詳細に承知致度、貴兄直接で工合宜敷候はゞ、好穂氏に御願被下、可相成、至急御取調相願度、奉懇願候 大阪の免養九一氏は、従来家に御座候哉如何、其人の履歴も承知致度候

大阪京都に於ける維新当時より盛んに業務を営み居りたる口中医、又は従来家有之候はゞ、是又承知仕度候

長崎の竹下初太郎氏の履歴も、貴兄御承知候分丈なりとも、其以上御探索被相願候はゞ尚仕合に奉存候

御多忙の際恐入り候へ共、急速取調置かざれば、漸時材料消滅候故、心配有之候

小幡先生の方面十分研究致候は最も緊要の事と存、此方面には病軀を押して研究致度考居候 此方面に就ても貴兄には承知の分丈でも御通知願度候 治療方面の事、料金の事等を通知願度候

執筆には、無精の貴兄に御無理を願候は恐入候へ共、清君に筆記を御依頼被下、一口書にて宜敷候間、是非御願申上候

試験終了も近々に相成、結構に存候 小生は来月5日迄故、前途遠く、塚原氏の病氣も快癒の様子も無之、出勤は被成居候も、御気の毒故、大概小生担任してやり居候 12人を1人にして仲々の骨折に御座候

先は右御願申上候也

拝具

御贈被下候花は、2本計り工合宜敷無之候のみにて、余は美事に咲居、もう両3日は眺め得られ候 御厚情難有御座候

(11)

拝啓 過日来毎日御精勤、1日も御欠勤無之、御勉強相成候由、御苦勞様に奉存候 小生今一度5日に出勤仕候はゞ御役相済候 御承知のボンヤリの頭脳に、尚病軀の為、一層ボンの的に相成居、職責を汚し居候事と衷心平ならざる次第に御座候 器械材料等御不便、御不都合無之候哉、東京にも材料等には大部不足を告げ購入相仰き候もの多々有之候 貴地に於ては、診断治療部との交渉円満に参候様子にて、好都合に被存候

東京に於ても、別段苦情も無之と被存候へ共、如何のものに候や、小生には分り兼候

御多用中何共恐入候へ共、左の人々の履歴御取調被相願候はゞ、仕合に奉存候

京都市○京区恵美須之町26

番号 5471

藤井源三郎

天保12年12月生

〃 下京区俊成町13

番号 5482

近 藤 小 太 郎

弘化2年3月

〃 下京区宮川筋5丁目16

番号 5494

浅 井 新 太 郎

安政3年1月

京都府紀伊郡柳原町11

番号 5542

中 島 三 之 丞

天保10年8月

是に渡辺晋三氏

若し何人に照会致候はゞ判明可致との事相分申候はゞ  
直接小生より照会致候ても宜敷御座候 当地にては何分  
当りも付かす困居候故、御手数相願候次第に付何分御願  
申上候

神戸の佐治と申す人は耕三の叔父にて明治9年頃神戸  
市に開業致居候人として小幡先生の先生たるイリヲット氏  
の門に入りたる人に御座候事判明仕候故此分は宜敷御座  
候 右佐治職と申人は同志社にも 入学致居候由 (12~3  
年頃)

当地に於ける実地試験状況御洩被下候はゞ仕合に奉存  
候 拝具

(12) 大正6年6月12日

拝啓 御花の翰拝読仕候処、愈々御健勝奉賀候 小生も  
幸い無事執筆致居候 過般は珍敷長文御通報に預り、誠  
に愉快に相感深く御礼申上候 又昨日は花種々御恵贈被  
成下、昨夜は電燈の下で不残鉢植となし、今朝は早起見  
物致候 毎度の御厚情御礼申上様も無之候

史料調査の御面倒相願、恐緒千万に奉存候 小幡先生  
の分は過日来、桐村、高木両氏を3~4回訪問致し、八  
分通拝承致候 本日中沢寅吉の来車を乞ひ、先生御開業  
当時の器械取調致候 其内横浜の関川氏訪問仕候はゞ、  
大略相片付可申と存候

何分40年前の事にて、更に記録無之、真相を後來に伝  
ふる事出来得ざるには残愧に不堪候 只誠意誠心従事し  
て、開拓の御功績を相伝度存居候

別紙東京に於ける実地試験科題、成績表御参考に差上  
申候間、御一読被下度候来秋試験に多少なりとも御役に  
相立候はゞ仕合に御座候

沿革史資料として、別紙の如き個条を承知候はゞ、其  
時代に於ける治術技工方面を伺うを可得列記仕候次第、  
尚御心付候点御注意願上候

先は御礼旁々如斯御座候

先便御恵贈被下候花の球は、花沢氏に送り候処、時期  
を得ず、明年の発育如何甚疑問との御小言頂戴致候 今

回の花嫁は至極健在にて、今朝は疲労の様子も無く喜候  
貴兄御令息、12月御入営相成候上は、一層寂莫の感に  
不堪事と心配致居候何とか御一考相成らは如何

(13) 大正6年6月22日

拝啓 梅雨鬱陶敷御座候処、愈々御清祥奉賀候 小生幸  
に梅雨の不時候もさしたる障害無之候間乍他事御休心被  
下度候

先般来沿革史資料調査に付種々御面倒願候段奉多謝候  
大阪の堀内清顕氏は大正2年死去被成候趣にて略歴同氏  
令息より被送越候此以上御手数相煩し候も効果有之間数  
被存候間御多用中は無沙汰相願候方は恐入候間御差支被  
下度候

佐治職氏の先生ギュリックとか申人は明治13年横浜に  
て開業し5年間横浜に滞在其後同地を去られたる趣 此  
人の履歴更に相分不申此人の親戚同志社に被居候由先般  
御上京の節御話は此人の事と存候 御序に御取調相願度  
候

先致御願申上候貴地4名の従来開業者には直接小生よ  
り書信相発候も書信も返戻せず又何等の返事も無之候  
死去被成居候はゞせめて戸籍謄本にても登載可致置かとも  
考候 是は何分御高配願上候

小幡先生に歯科を勧誘相成候近藤坦平氏生存被成候  
親しく面会当時の事情拝承仕候甚愉快と存居候 是迄伝  
居りたるものと大同小異に有之候

いづれ纏り候上は謄写版になり致小幡門下の有力の方  
々の御一覧且訂正を得度考居候

渡辺晋三氏の伝記別紙丈調査出来居候 其不明の点等  
分り候はゞ仕合に御座候御高配御記入被下度候

過般御送被不候花は日々美装して小生を慰藉成呉貴兄  
の御厚意感謝罷在候 何と申候花か小木にて大にて美事  
の開花を得へく喜候処翌日蕾落ち 落胆失望致候

梅雨にて来患少なく資料集収に勉め居候も仲々面倒に  
て閉口罷在候 せめて4大家(小幡、高山、伊沢、渡  
辺)丈なりと至急取調度急居候

時下折角御自重祈上候

草々頃首

(14) 大正6年7月初5(日)

拝啓 暑気甚敷相成申候処愈々御清健奉賀候 小生事  
無事消光罷在候間御安神被下度昨日は水蓮各種贈恵被成  
被下成厚難有奉拝謝候小生花を 植置候もの3種有之 皆  
其以前種類にて小庭に8種の美花備はり候次第是非本年  
は8種共開花を得度候へ共慾望相兼申事に可致候 兎  
も角御指示に従ひ早速昨夕植付申候 当冬の手当御報  
知願度候 小生是迄所持のものは普通の最少と中大の黄

色のものにて赤色は未だ開花不致来年開花するや否や疑問に御座候 小中は先月末より咲初め日々3花処位笑ひ居候

葵は当節は勢能く日々美装致居候

沿革史調査に没頭致居候小幡先生の分は大分進行し8, 9分通相済申候 伊沢, 渡辺, 高山先生尚4~5回宛各方面研究可致必要有之候

池ノ谷, 桐村, 高木, 関川, 林, 高田其他の分は雑粗のまま有之候へ共24~5人分1通出来申候 7~8人分は未だ仲々集り不申候

大阪西村氏の分は各方面に依頼致置候へ共何処よりも何等の返事無之閉口致居候

先は御礼旁々近況申上候

御働之程度を減じ出来可得丈御健康注意切に祈上候

拝具

御賢息へ宜敷御伝言願上候

(15) 大正6年9月26日午前

拝啓 愈々御清昌奉賀候

久敷不接貴音如何御消光相成候哉と痛神罷在候 小生も爾来さしたる障害もなく消光致居候 本月より実地試験相始まり隔日出場致居候

貴兄の方も近日から始、御多用奉察入候 受験者間の評判にては東京の実地試験より大阪の方極めて簡易なりとの噂高く御座間先般御通知申上候東京実地試験日誌御参照相願出来可得丈同一步調を執候様御高配相願度候

ミスケリー氏並に井伊伯御紹介被下候由毎度御厚情奉深感謝候

去月は新潟地方へ御出遊の由極めて御愉快の事と察居候

水蓮は未だ開花致居候 併し一輪位也 本月10日辺より金の欠乏と大騰貴とには大閉口致 内務, 大蔵, 正金, 日本銀行等の方面に大々の運動をなし漸く一昨日御通知申上候様に相成大安神致候 今回の運動は物其物丈に政府当局も非常に尽力被成呉交渉開始以来3, 4日に於て全部解決致候は会としては是迄働きし中の最も捷速なる事にて大に快感有之候次第也

沿革史資料の内 京都の従来家5名の分戸籍写なりにて宜敷御座候御門生なりとも御取調御命被下度願上候

先は御返事迄

草々

御令息は御健勝業務御勉勵に御座候哉御入営も間もなく御心せわしき事と存候

(16) 大正6年10月30日朝

拝啓 愈々御清健奉賀候

昨日より試験開始相成御苦勞様に存候

昨日は復々松茸並にシメジ茸沢山御恵贈に預り難有昨夜家中打揃早速賞味致候 殊の外美味にて一杯増喫致候段深く御礼申上候

過日御令息御来訪被下候処御急の為甚失礼致候

数日前伊井伯爵不快相感候に付往診可致依頼有之参上 石炭酸の貼付致置候 来11月11日に貴兄と約束致置候故夫迄感ぜざる様手当候よは御依頼に御座候へ共如何のものに候や 御出発前に今一度交換の必要相起り候哉難計候

先は御礼如斯御座候

拝具

(17) 大正6年11月7日朝

拝啓 御多祥奉賀候

陳者貴地滞在中は御繁用中にも拘らず種々御厚配に預り御かけにて大に便宜を得候段難有深く御礼申上候 殊に態々瓢亭迄御案内を蒙り御馳走に相成候段奉感謝候

小生寢台は乗車中にて都合出来横臥出来3人共何等の異状無之無事帰京仕候最初出発の際病軀にて長途の旅行堪へ得るや如何大に氣遣候処何等の故障も無之拙母多年の宿願相達し子たるの責務の一部分を遂げ得たるは大に仕合の事と感謝仕居候 着京後疲労相覺臥床静養仕候処今朝は大に元氣に相成執業其後勇氣相出申候間御安神被下度

先は不取敢御礼申上度如斯御座候

御賢息へ宜敷御礼御申伝被下度候

拝具

荊妻よりも厚く御礼申出候

(18) 大正6年12月15日

拝啓 寒氣甚敷相成申候処愈々御清榮奉賀候 過般帰京後長く不在に致候為難用蝸集彼是配慮致して旅疲の為胸痛屢々相発候得ともさしたる事にも無之 当節は大に宜敷相成申候間乍他事御休意被下度候

一昨日は美事なる蕪並に芋沢山御恵贈被成下御厚志難有奉感謝候

如斯美味なる芋未だ曾食したる事無之とて家族共大満足に御座候来年は培養相試み度候間若し余り御手数に無之候は、芋種少々計りにて宜敷御座候間来年植付時に御送被下候は、仕合に奉存候 東中野の地所帰京後地均垣等まゝ手当致井戸の開鑿着手致居候 畑地は200坪近く可相成多少芋, 人参, 午旁培養出来一般家屋建築の場処には少々位の花養へられべく存候

田園生活を営み宿痾多少なりとも緩解仕候は、と相考候 賢兄は一に神へ御摂理に御任せ可申候

先は御礼旁々如斯御座候

拝具

12月1日には御賢息御入営に相成単独生活寂莫の感一層と奉深察候

(欄外に書入れしもの)

試験委員認命は両3日後には無之候哉 昨日宇賀氏の原籍文部省より照会有之候 東京は2, 3人に止まり候様察居候

過日丸山氏候補者に付相談有之候 愚見申陳置候

(19) 大正7年7月29日

何と暑いてはないか、当節は如何御起居被成居候哉何度候

小生3月中頃より東中野に普請相始め本月中頃より未だ大工の手を引かざる内に移住致日々早朝出勤半日執筆午後は農園生活相営み申候 未だ宿痾に対する効果は相見不申候へ共気分は大に宜敷子供は食欲増進致多少肉付たる感有之候 先般来金問題に就ては正金支店長と6~7回の会見を遂げ漸く眼鼻付候様に相成申候 仲々の苦心に有之候 御近況御一報被下度候

秋になりたらは月桂樹の苗一本御送被下度永久の紀念に邸内に植置度候 本春は生児のありたる為 御宿も不致処該児は6月終に昇天致候東中野は1人2人は宿泊出来申候間御上京の節は御出被下度待入候 東京近在としては眺望は可成宜敷方に有之候 日々青田を眺め富嶽をも望み浮世離れ致慥に1日の長命は出来可得存候

先は暑中御見舞旁々近況御報告申上候 草々

(20) 大正7年8月21日

拝啓 愈々御多祥奉賀候 御住居普請の由物価誠に高騰の際中々の御入費と存候 小生は3月より着手致居候爾来追日物価上騰の為予算の倍額に相成閉口仕候 家屋の方は漸く片付候へ共当村植木やの手にて庭を造り居候

昨日は未だ曾て見ざる美事なる大水瓜御惠贈被下 件両3日腹工合悪敷候為乍遺憾1両日も後に大好物相試み度楽み居候 外形のもうより推測するも内味殊更宜しかるべく咽喉鳴るを覚え申候

金老件全国歯科医専門標榜医師病院其他全般を本会に於て引受購券発布致候事に取極めたる結果非常に混雑を致し居候処か正金にては当方の要求額すら十分に金貨払下を実行せず 又々内務大臣、大蔵大臣に突貫せざるべからざる事と相成苦神罷在候 去6月当局へ呈出候予想量は1ヶ年200貫匁ならんとの事に御座候処今日にては300貫にては不足のものように相見申候 当局にては200貫匁にすら驚居候に300の驚には尚更の事と存候 都合宜く本会の要求採用被成呉候はと存居候 拝具

先は御礼旁々如斯候

(21) 大正7年10月初1(日)

拝啓愈々御清健奉賀候

月桂樹並に珍草御送被下難有御礼申上候

早速植付永遠に繁茂させ貴下の御厚意を長く長く紀念致度奉存候

不取敢御礼申上度如斯御座候

拝具

金問題に就ては不相変苦心致居候

内閣交迭候為此数日間には目鼻も相付不申候 両3日前大阪の橋本へ出張を乞候 調節法に付当方の意志通達致置候始末也

(22) 大正7年10月27日夕刻

啓上 免角不順之候愈々御清健奉賀候

過般来実地試験にて種々御心痛の事と奉察入候 宇賀氏病氣再発芦屋へ転地療養の由従て貴兄の負担多大なりしと推量罷在候

小生は此期は辞任申出閑地に相就き度存候処丸山主事より懇請不得止籍丈其儘に為し補欠位の位地に相立ち居申候 未だ一度も出頭不致候

毎度御心に懸られた美事なる松茸御惠贈の段難有早速昨夜今日種々の料理になし御厚意を賞味仕候

御普請最早完成致候や内外務大臣か大阪へ御出張する治療はする普請はする毎日多忙の事と察入居候

小生は普請は略ぼ完成致候も庭の手入中々暇取れ未だ職人の手が切れず当地は植木の価格も非常に騰貴にて予算の2倍以上に相成候

御惠贈の月柱樹は勢能く御座候

金問題の増量運動仲々急速に成功無覚束愈々内閣に議を取運ぶべく運動致居候今日の処にては来月15日に相成候は、1匁の金も得られず如何にも苦心致居候過日申上候通 不足量を漸時繰上げ間に合せ居候も東西にて僅かに8貫目より繰上に応し呉れず要求量は156貫に御座候故調節に対しては仲々の苦心に御座候 殊に関西方面は林田氏か橋本か関西全般に平等に分布すべき方針に就き多少当方の意の如く不相成自然不公平不平の感有之苦情百出甚困難致居候

全国4,000人を相手に仕事致候事は業務之余暇にはちと面倒過ぎる義に御座候殊に今回の如く予想倍額の金量を要し正貨準備の都合上政府は払下げず民間よりは金は得られず今日にては金の価は問はず歯科医療に差支なき範囲内に於て是非共供給を得度政府に迫り候も政府としても金の価を多分に引上げ候は金貨本位に対し苦痛有之候様子 いづれにしても簡単に解決出来難き有様也

只小生の遺憾に堪えざるは今日如斯多量の金の入用其

用途か真正の歯科医術に使用するなれば差支無之候へ共完全の前歯に裝飾的に金冠を入れ又接合面の僅少の腐蝕に開面金冠を装置し以て歯科医術なりとして平然とかまへ歯科医術の進歩を害し歯科医風を墮落し所謂山師にも劣る仕事を為す其材料の供給に向て病軀を押して斯迄奔走苦心をせざるへからざるに至りては心中煩悶に堪へず夜分も碌に安眠を得ざる事も屢々有之候何とか此弊風を矯正し折角向上発展しつつありし日本の歯科医術を旧態に復し尚一層進境に導き度候 病軀夫迄に努力出来かた候間貴兄一奮発是非御申上候 拝具

(23) 大正 7 年 12 月 11 日 夜

拝啓 時下愈々御清栄奉賀候

過日は御賢息御来訪被下候処不相変取込中欠礼致候露国御出発の御見込の由何寄の仕事双手を挙げて賛意を表し候殊に御賢息の御健康状態至極佳良御安神の事と存候 小生宿痾の心臓病も金問題に付彼是心痛致候為か軽快よりも寧ろ増進の模様有之発痛の度も増加致加之ならす近来は神経衰張をも併発の気味にて安眠を得ざる事屢々にして今にして静養せされば大事に可立到被存、会務に遠かり専心静養致度血脇兄始役員諸氏に申出候処同情を得愈々両 3 日前手続相済申候 金問題も諸君の御尽力に依り乍一時的稍所要の増量を得たるを以て各地よりの苦情も減却致安神出来候際にも有之旁此際全く会務に遠かり業務一方に其日を送り度存候

30 年来公共事業に係致幸大過なく今日ありしは全く貴兄等の厚き御同情御援助の賜と深く感謝罷在候次第に付此機会に於て満腔の謝意を表し度斯御座候 拝具

齒界の前途益々多事と被存候に付貴兄の如き健康者は一層御奮発斯道進歩発展の為小生分迄是非御尽力相成度奉切望候

(24) 大正 7 年 12 月 16 日

啓上 年内余日無之御多用奉察入候

関東名物さつま芋風月堂に命じ焼芋となし鉄道便に托し本日御送申上候間着の上は金網にのせ其上に於て温め食上り被下度 運送中くつれ候哉難計候 当地は降雪以来寒氣激増致候 殊に中野村は東京より朝夕 4~5 度は寒氣強く有之候 併貴地よりは余程温ならん 43~4 度の程度候や 早々

(25) 大正 8 年 1 月 9 日

友あり遠方より来る亦樂からすやで思ひ懸なく君か尋ねて呉れて嬉かりけり、話し度事も沢山ありとも話尽きす何となく心残り致候 今日はいきスカ採りて働いて居

るたろう精々人助に健康時に大に働き賜へ 僕の様在床上に仰天子を極める様になりては如何共致方なきものぞかし、君の贈り呉れた芋は早速煮て昨晚と今朝君の深き情と何とも云へぬ味にて病苦を忘れて食した 甘かつたよ 厚く御礼申ます 小生の病氣も漸時快方に相成申候 不変相熱も出せず咳嗽も余りなく加答兄も大に取れたと医師が申居候間御安神被不度候

復たと申しては面倒故此機会に於て心臓病の方も幾分寛解し得るものなればと佐々博士に注文致置候 処 今日尿、糞、血圧、其他総ての試験を被成候故明日頃より其療法に取懸る事と存候 不治の病症到底全快は企待さる処に無之候得共幾分なり直れば幸福と考居候 孫の方は大に快方なりとの報告あり多分大丈夫と考居候 小生退院の上は湘南辺の暖地に趣き暫時静養致度考に御座候

床上に横はると種々なる問題脳裏に浮ひ出申候 兎も角神は病氣を与へ修養を請求せらるゝならん乎

煩悶もなく御摂理に打任す事の出来る事祈候

1 月 9 日窓外雨声頻々

杏雲堂医院病臥中

積 一

(26) 大正 8 年 2 月 13 日

拝復 16 日付の尊翰昨日漸く拝読仕候

寒氣烈敷際にも拘らず不相変御健勝御勉業の段奉賀候御賢息は遠征寂敷独身生活御同情に不堪候

早く適當の先生を迎へられ寂莫の御生活より離れられん事を祈居候

小生一家は昨年暮より神罰蒙むりたりるにや中野村の一族は妻を残す外不殘罹病し、御承知の如く愚孫迄入院致漸く 15 日退院 16 日逗子へ参り 3 週間以上同地に於て静養仕居候処子供連の宿屋住非常なる苦痛にて一定不変の食事と隣室への氣兼ね々面倒なるものに御座候一戸を借受け候はゝ如斯事は避け得られ候事は承知致候得共何分長時日の看護と心配とにより心身共非常に疲労せる荆妻には食事の世話丈も除き得らるゝ宿屋の方便利と考へ宿屋住に致候処却て心身を勞する種と相成看護婦たる妻か病臥せずやとの心配が起り不得止去 7 日帰京致候処相惡翌日は 5~6 寸の積雪と申程の大雪にて寒氣は層一層増加致候第一に小生復々咳嗽相発石油ストーブを応用し室内暖氣を増したるも終に及はす 6 日目には太郎又々 39 度の発熱咳嗽を起し妻は又々日夜看護の為遂に数日前 39 度 6 分の発熱臥床し止むなきに立到り其 2~3 日前愚娘(太郎の母) 39 度分の発熱復再発と当方にて又々 4 人の病人出来いやは閉口頓首此事に御座候幸に太郎も小生も其後下熱致妻も娘も今日の処平熱に相成稍愁眉を開き申

候一時は非常に心配仕候何分再三の感冒罹症肺炎を併発致候様子故御摂理に任すとのみ平静なる程に信仰を存せざる小生は尠からず煩悶仕候甚御恥き事ながら憂き事のみ尚此上に積れかしとの勇氣も無之を自白仕候次第御一笑被下度候当地は一兩日前より春風吹初め寒氣も幾分緩和致候様子故自分も他の病人も漸時快方にかと趣被感候間御安神被下度候

御賢息の御消息時々有之候哉御伺申上候

門人退塾者有之御由御多用奉察入候併し御多用は却て御健康の為めかと推察罷在候併し余り御過勞無之候様御注意切に祈上候

先は忙中一筆如件

草 々

(27) 大正8年3月初7(日)

拝啓向春之候愈々御清健奉賀候 拙家も病人全部離床致小生も4~5日前より執業仕居候間御安心被下度候

昨日は揚子御郵送被成下御手数奉拝謝候代金は幾何に相成申候哉 遂正月御面会の折の御話失念仕候間御教兩願上候

4月は12, 3, 4, 3日間学会同窓会連合会等の開催有之候間御出京奉待入候 当節は書生増員被成候哉 手を十分になし御休養被成下御執業願上候

相互に年長に候はゞ無理は禁物に御座候

健康にして愈々長く浮世の為に多少の貢献致度ものに御座候

余りあくせく致しても結局は同一の到着点たるべく候 一家の上に就て問題相起し居候得共是は御面会の折委曲御話可申上候先は右用迄

不 二

歯学史メモ②

### 歯学史を研究される方に

歯学史に興味をお持ちの方で外国のものをお調べになる参考書が今、医歯薬出版に入荷して居ますので一寸ご紹介致します。

1. Bremner: The Story of Dentistry  
third edition 480p. 3,600
2. The History of the American Dental association 520p. 3,200
3. Cope: Sir John Tomes pioneer British Dentistry 108p. 1,350
4. Proskaner and Witt, Bild geschichte der Zahnheilkunde 220p. 6,200
5. Ennis: The Story of the Federation Dentaire Internationale 1900-1962. 288p. 4,000

## 第11回 集談会 (12月例会)

昭和42年12月6日(土)午後2時、神田駿河台日大歯学部大学院大会議室で開催、東京医歯大、日大の各教室から多数の臨時参加者がありさしも広い大会議室も席が不足する様な状況であつた。

## わが国における 歯科保存学の歴史

桧垣麟三\*

### むしばの禁呪 民間療法

むしばの禁呪の種類を分けると、祈祷、お札、虫封じ、薫蒸法、売卜的の呪、鍼灸、売薬の姑息療法が行なわれた。

### 保歯新論

明治14年出版の高山紀斎著保歯新論には、う歯論では原因に歯牙造構の不良、歯牙の変形、保護の不注意、歯位不正位、他病の継発、妊婦の唾液変性、貧血、胃酸過多、リュウマチ、ガマ腫、咽喉カタル、ジフテリア、驚口瘡、薬石の中毒、抵触物の性質(糖分多食)、硬固物咀嚼の習癖、粗糙歯みがき、キセル、酸味の食物、義歯の不良、打撲損傷、死歯、過熱、過冷の抵触をあげていて、う歯は伝染病と結論している。

歯痛論には、原因に歯牙の性質、歯髓の暴露、歯根膜の疾病、歯腔内膿液鬱積、歯腔内骨腫、交感痛、胃酸過多、ヒステリー、歯槽の消散を記し、療法は原因除去せよで、簡便法として綿絮、丁子油 または薄荷油を詰める。

唾石論には歯槽膿漏の症状が書いてある。

### 歯科全書(翻訳書)

前編は明治18年、後編は同20年に出版、保存関係では、う歯論、う歯の局所療法、歯の填充法、歯痛、髓腔、髓管填充法、膿漏、歯齦病が書いてある。

### 歯科雑誌

瑞穂屋発行の雑誌で、第2号にはカンホフエニックについて、歯根充填にコスモリンを使うとよい。コスモリンは過酸化亜鉛と思う。ペッチャー拡孔錐があるが、リーマーでしょう。これはピアノ線から作つたもの、う窩の装てんにはコロロペルチャーの乾かぬ間に充填せよ

\* HIGAKI RINZO 東京医科歯科大学名誉教授、神奈川歯科大学長